

プロジェクト1

「水俣病被害の現状と再評価に関する健康・社会問題の調査研究」

下地 明友 shimoji@kumagaku.ac.jp

1. 「水俣病」の脱構築

○プロテウスのな姿 ・ 超多形性 Polymorphic ・ ヘテロジニアス Heterogeneous

2. 「X(エックス)病」の「定義」をするのは誰か

○科学における方法の相補性 (ポール・ディージング)

3. 医学的認識の二方法

1) 第一の形式 (「定義方式」)

○「病 X (エックス) は、次の条件を満たすものをいう」

2) 第二の形式 (「通時的=自己修正的=自己増殖的なクラスター」)

4. 分水嶺: 1970 年前後; 「52 年判断条件」の成立背景史

「結局、その第一次班というのは、初期のころには、自分たちの学問的な欲求というんでしようか、水俣病の研究で教授になったり博士になったりした人たちが 200 名くらいいるという話ですが、その人たちは偉くなつたばかりで、患者のあとをみないという、そういう長い年月がまだ続いております。…水俣の症状というのはその方々が分類した期間までで、その後の患者さんの症状の変化というものは全然研究されておられません。素人でさえ、私たちの仲間が調べた結果によりますと、その定説とされている水俣病の症状がだんだん違っているということがわかってまいります。」 石牟礼道子: 「流民の都」『現代の眼』1972 年、4 月号

5. 分類の2類型

1) 共通項による分類 (単配合的分類) (Monothetic System)

「<君の名は> シンドローム」。トートロジーの陥穽。

2) 共通項によらない分類 (多配合的分類) (Polythetic System)

「家族類似性」 Family Resemblances (L. Wittgenstein)

6. 方法論

○ジェノグラム Genogram 作成法

○生態的—地政学的方法 (生活の場のマップ): 疫学的。地理的マップ。家族マップ

(「多次元的水俣学 Multidimensional Minamatalogy」)

7. 身体・脳の発達と症状のヴァリエント

○身体 (脳) の発達時期 (胎芽、胎児、乳児、幼児、成人以後) と水銀暴露時期との対応マップ図の作成 (<発達しつつの暴露>の姿も)

Life Span からみる病変の分布のヴァリエント

○アセトアルデヒド生産量グラフと出生時期のマップ

(「発達論的水俣学 Developmental Minamatalogy」)

8. 大脳の障害部位といわゆる「高次脳機能障害」問題

○いわゆる「高次脳機能障害」のカテゴリーを使用することの意義問題。

いわゆる再び「こうもり問題」を意図せずして招いてしまうことへのリスクマネージメントの必要性。